

実習計画

1. 実習目標

[授業の目的・ねらい]

精神保健福祉援助実習を通して、相談援助に係る知識と技術について具体的かつ实际的に理解し実践的な技術等を体得する。また、精神保健福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を習得する。関連分野の専門職との連携のあり方及びその具体的内容を実践的に理解する。

[授業全体の内容の概要]

次にあげる事項を実習指導者、精神保健福祉援助実習指導担当教員による巡回指導及び実習指導者との連携のもと個別指導を行う。①利用者等との基本的なコミュニケーションの習得、②利用者理解に基づく支援計画の作成及び支援とその評価、③チームアプローチの実際や精神保健福祉士の倫理をはじめとする組織の一員としての役割と責任の理解、④施設・事業者・機関・団体等の経営やサービスの管理運営の実際、⑤当該実習先の地域社会との関係の理解及びネットワークキングをはじめとする地域社会への働きかけ等の理解。

[授業修了時の達成課題(到達目標)]

精神保健福祉士に必要な知識と技術、価値や倫理を、実習先の利用者及び関係者、実習先の組織・運営・地域社会との関わり等を総合的に理解し、あわせて社会福祉専門職としての自己の振り返りができる。

2. 実習指導者及び実習施設との連携

- ① 実習指導者打ち合わせ会を開催し、本学の実習目標等について伝え、あわせて実習施設の実態をふまえた、実習のあり方について協議する。その際、本学作成の「実習の手引き」を利用し、学生・教員・実習指導者の三者共通の認識のもと、実習がすすめられるよう工夫する。
- ② 学内実習指導の一環で、学生と実習指導者が意見交換を行う機会を設け、各学生の実習計画書作成上の課題や留意点について協議する。
- ③ 実習反省会を実施している。趣旨は実習生が実習体験をもう一度振り返り、実習巡回教員並びに実習指導者からスーパーバイズを受けることである。実習生はこの実習反省会からもう一度コメントやアドバイスを受けることにより、さらに実習で得られた体験を考察し、実習報告書作成につなげてゆく。

3. 精神科ソーシャルワーク実習の展開

○精神科ソーシャルワーク実習

精神科ソーシャルワーク実習(障害福祉サービス事業所) 一期間と目的一
実習期間:夏期集中・8月に2週間(10日間)
【実習目的】 障害福祉サービス事業所に於ける利用者理解及び支援計画、援助関係の形成、権利擁護及び支援(エンパワメントを含む)とその評価、実習先と地域社会との関係について実習計画書に基づき理解する。
【実習内容】 1. 利用者理解と支援計画の作成 2. 利用者との援助関係の形成 3. 当該実習先が地域社会の中の施設・事業者・機関・団体等であることへの理解と具体的な地域社会への働きかけとしてのアウトリーチ、ネットワークキング、社会資源の活用・調整・開発に関する理解
精神科ソーシャルワーク実習(精神科病院) 一期間と目的一
実習期間:夏期集中・8月下旬～9月に3週間(17日間)
【実習目的】 精神科病院の概要及び実習先における精神保健福祉士の機能と役割、利用者及び家族等との基本的なコミュニケーション技術、専門職間連携及び施設等の経営やサービスの管理運営の実際について実習計画書に基づいて理解する。
【実習内容】 1. 精神保健福祉士としての職業倫理、施設・事業者・機関・団体等の職員の就業などに関する規定への理解と組織の一員としての役割と責任への理解 2. 利用者やその関係者、施設・事業者・機関・団体等の職員、地域住民やボランティア等との基本的なコミュニケーションや人との付き合い方などの円滑な人間関係の形成 3. 多職種連携をはじめとする支援におけるチームアプローチの実際 4. 施設・事業者・機関・団体等の経営やサービスの管理運営の実際